

運用支援システム(M-VOS)からのファイル移行について

システム管理係

本誌の別掲記事「システム入れ替えのお知らせ」に掲載しているとおり、運用支援システム(m-vos・m-unix)は、2007年3月上旬でサービスを終了します。

センターでは、SR11000/J1 などへのファイル移行は行いません。ご面倒ですが、利用者の皆様には、各自でお手元の Unix/Windows や SR11000/J1 などへのファイル移行をお願いいたします。

以下、ファイル転送前の注意事項、FTP コマンドによるファイル転送例を紹介しますので、参考にしてください。

1. ファイル転送前の注意事項

VOS3 で作成されたプログラム、テキスト形式のデータ、テキストファイル等のみを Unix/Windows へ転送して下さい(ロードモジュール(.LOAD ファイル)は転送しても実行することは出来ません)。なお、VOS3 で作成されたバイナリデータを Unix で読めるように変換する FCONVERT コマンドがあります。これについて詳しくは[1][2]をご覧ください。

[1] センターニュース Vol.27, No.3 (1995.5)「s-unix, m-unix での FORTRAN, C, NQS

あれこれ(その2)」(<http://www.cc.u-tokyo.ac.jp/cnews/Vol27/no3/are2-all.pdf>)

[2] 東大センターにおける UNIX システム入門(第2版)(1996.7)「同」

1.1 レコードフォーマット(RECFM)

RECFM が V, VB, VBM の場合、レコード中にレコードの長さの情報が含まれるため、Unix/Windows へは転送できません(転送自体はできますが、利用できません)。このため、V, VB 等のデータセットは事前に F, FB へ変換してください。(以下は RECFM=VB, LRECL=255 のデータセットを RECFM=FB, LRECL=80 へ変換し、変換元のデータセットの 81 バイト目以降に必要な情報がない場合の例です。81 バイト目以降に必要なデータがある場合は、その最大長を指定してアロケーションしてください。)

例: (転送したいデータセット名: A.FORT, 転送すべきデータセット名: @A.FORT)

>> FSH A.FORT

ORG-RFM-BLKS/LRECL---SIZE(USED)----EXT----DSNAME-

P0 VB 6160/255 58(4)KB 1 A.FORT

>> FILE ,@A.FORT, DCB(RECFM=FB, LRECL=80, BLKSIZE=6160), DSORG(P0), NEW ※1

>> FCO A.FORT, @A.FORT

※1 ファイル容量、ディレクトリブロック数等は、必要分を適宜指定してください。

1.2 FORTRAN のシーケンシャル番号 (73~80 カラム)

FORTRAN ソースプログラムの 73~80 カラムにあるシーケンシャル番号は、一般には不要です。これは以下の方法により削除できます。

例： (転送したいデータセット名: B. FORT, 転送すべきデータセット名: @B. FORT)

>> FSH B. FORT

ORG-RFM-BLKS/LRECL---SIZE(USED)----EXT----DSNAME-

P0 VB 6160/255 58(4)KB 1 B. FORT

>> FILE ,@B. FORT, DCB(RECFM=FB, LRECL=72, BLKSIZE=7200), DSORG(P0), NEW ※1

>> FCO B. FORT, @B. FORT

※1 ファイル容量、ディレクトリブロック数等は、必要分を適宜指定してください。

2. FFFTP による PC(Windows) へのファイル転送

FFFTP(フリーウェア・FTP ソフトウェア)を利用した方法を紹介します。なお、FFFTP のインストール方法は、ウェブ等を参照してください。

2.1 ホストの設定

FFFTP を起動すると下図のようなウィンドウが表示されます。



図1 FFFTP ホスト一覧

ホストを設定していないと上図のように何も表示されない状態になります。“新規ホスト” ボタンをクリックすると新たにホストを設定することができます。ホスト設定ウィンドウ(図2)が表示されたら、以下の部分を設定してください。

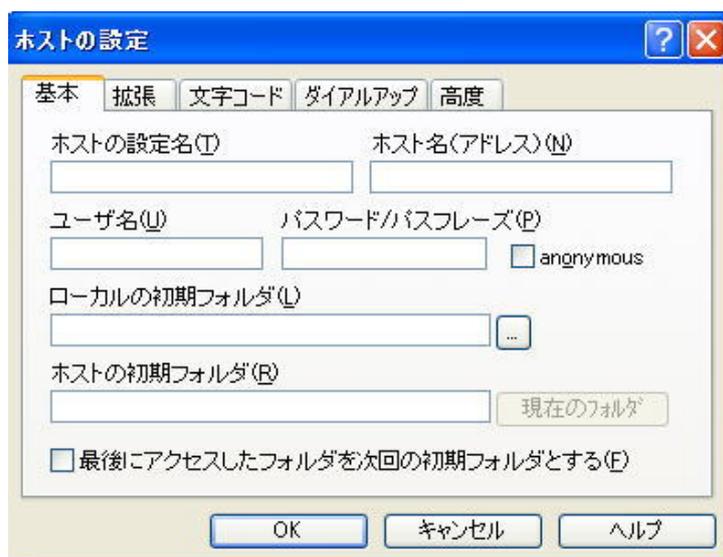


図2 ホストの設定ウィンドウ

==基本==

ホストの設定名	任意(ここでは、m-vos とする。)
ホスト名(アドレス)	m-vos. cc. u-tokyo. ac. jp
ユーザー名	A00000
パスワード/パスフレーズ	*****

A00000 *****: 自分のユーザー名及びパスワードを入力

==拡張==

PASV モードを使う	チェックをはずす
-------------	----------

==高度==

LIST コマンドでファイル一覧を取得	チェックをはずす
ホストの種類	“自動認識” => “ACOS-4” に変更
NLST ファイル名 / オプション	“-all” => “” (空欄) に変更

設定が終了したら OK ボタンをクリックしてください。

2.2 接続

ホストを設定後もしくは新たにFFFTPを起動後、ホスト一覧ウィンドウが表示されます。

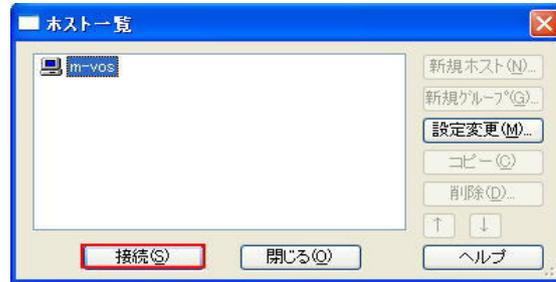
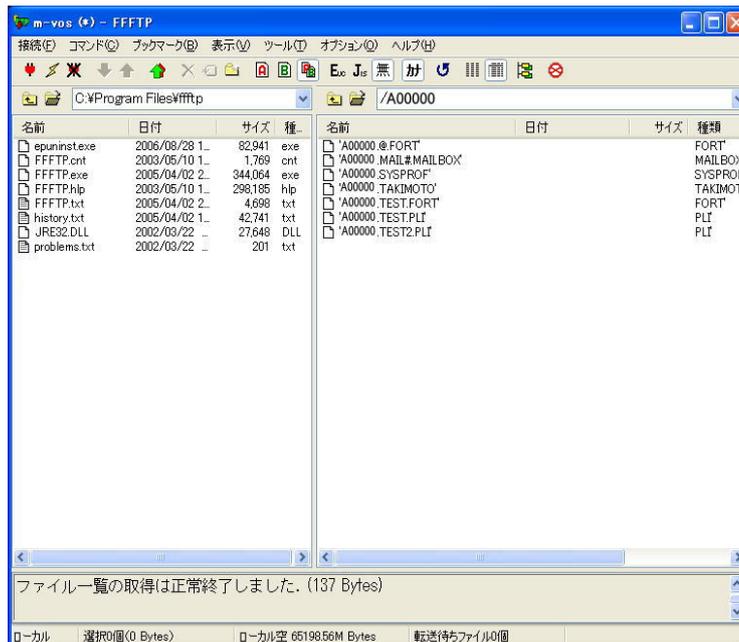


図 3 ホスト一覧(ホスト設定後)

ホスト設定後であれば、m-vos という表示が一覧にあります。それを選択し、接続ボタンをクリックすると接続し、図 4 のような表示になります。



左側 : PC クライアント側 右側 : m-vos 側

図 4 ログイン後の表示

2.3 データーセットの転送

2.3.1 順データーセットの転送

図4により説明します。

左側(PC側)で転送したいフォルダに移動してください。フォルダを作成する場合は、右クリックメニューからフォルダを作成してください。

右側(m-vos側)のデーターセット一覧から転送したいデーターセットを選択します。複数選択したい場合は、最初のデーターセット名をクリックし、シフトボタンを押しながら最後のデーターセット名をクリックします。データーセットを複数指定する場合は、コントロールキーを押しながら選択します。

ASCIIモードで転送する必要があるため、上部のメニューバーにある赤い字のAというアイコンをクリックしてください。上部のメニューバーにある青い下矢印をクリックすると指定したフォルダにデーターセットを転送します。

2.3.2 区分データーセットの転送

区分データーセットは、図4の状態では認識せず順データーセットと同様な表示になります。区分データーセットの転送方法は、以下のとおりです。

① 区分データーセットの中身を表示

図4の右側(m-vos側)の  (フォルダの移動)アイコンをクリックしてください。

下のようなウィンドウが表示されます。ここに転送したい区分データーセット名を入力してください。



OKボタンをクリックすると、区分データーセットの中身(メンバー名)が図5のように表示されます。

ftp> <u>prompt</u>	y/n のプロンプトを出さない
ftp> <u>case</u>	大文字 → 小文字
ftp> <u>nmap \$1 \$1.f</u>	[メンバー名] → [メンバー名.f]
ftp> <u>ascii</u>	アスキーモードに変換
ftp> <u>quote site setcode SHIFTJIS</u>	SHIFTJIS に変換(※1)
ftp> <u>cd test.fort</u>	転送するデータセット名を指定
ftp> <u>dir</u>	メンバー名を表示(確認のため)
ftp> <u>mget *</u>	全てのメンバーを転送
ftp> <u>bye</u>	終了(quit でも可)

※ 下線部分を入力

※1 この変換は、漢字を含むファイルの場合のみ必要です。
漢字コードは、SHIFTJIS、EUC、JIS8 が選択できます。

3.2 順データセット(PS)の場合 (例:test.data を転送)

% <u>cd test</u>	転送先のディレクトリーを指定
% <u>ftp m-vos.cc.u-tokyo.ac.jp</u>	ftp で m-vos にアクセス
User(m-vos.cc.u-tokyo.ac.jp:(none)): <u>a30000</u>	利用者番号を入力
Password: <u>*****</u>	パスワードを入力
230 LOGON COMPLETE	
ftp> <u>case</u>	大文字→小文字
ftp> <u>ascii</u>	アスキーモードに変換
ftp> <u>get test.data</u>	データセットを転送する
ftp> <u>bye</u>	終了(quit でも可)

※ 下線部分を入力